

紙飛行機通信

香川大学教職大学院ニューズレター 30

専攻長のあいさつ

植田 和也

教職大学院開設11年目となる令和8年度、新たな21名の院生と3名の専任教員の先生方を迎えてスタートしました。ガイダンスが行われた4月2日は、教育学部北側にある正門近くの桜が満開でした。また、令和8年3月には13名の院生が修了し学校現場へと旅立ちました。修了生の皆様、自分自身の紙飛行機を子どもたちとともに飛ばしてください。



令和8年度がスタートしました

4月7日、あなぶきアリーナ香川において、香川大学および大学院の入学式が挙行政され、教職大学院には、21名が新たに入学しました。今年度は他大学からの入学生も多く、多様な学びや経験をもつ学生が集っています。異なる背景をもつ仲間が加わったことで、教職大学院に新しい風が吹き込み、今後の学びや協働がより一層豊かになることが期待されます。

また、令和8年3月には、9名の現職教員学生と4名の学部卒学生が修了を迎え、それぞれの場所で教員としての新たなスタートを切っています。「学び続ける教員」として、それぞれの学校現場で教職大学院で学んだことを広げてくれることを期待しています。

教職大学院説明会を開催します

教職大学院にご興味のある方(受験を考えておられる方)を対象に、対面とオンライン(Zoom)併用による教職大学院説明会を右記の日程で行います。実際の大学院での学び、院生の様子、入試など、本学教職大学院にご興味のある方に向けた話をいたします。ご質問やご相談にお応えする時間も設けます。3回の説明会の中でご都合のつく折に、ぜひご参加ください。

第1回 令和8年 5月 27日(水)
第2回 令和8年 9月 16日(水)
第3回 令和8年 12月 23日(水)
いずれも16:30~18:00開催

参加フォームは
こちら
クリックも可



新しい職員を紹介します

専門分野は、社会科教育・地理教育で、昨年度までは広島県で33年間、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の全校種の学校現場において、社会科・地理歴史科・公民科の授業開発及び実践研究を、県立埋蔵文化財センターや県教育委員会文化財課においては、発掘作業・発掘調査報告書作成業務及び文化財保護・活用業務を、また、県立教育センターにおいては、社会科・地理歴史科・公民科担当の指導主事として教員研修を行ってまいりました。これらの現場経験による実践研究を基に、本大学院において皆様のお役に立てればと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。



授業力開発コース
准教授 中村光則

今年度より香川大学に着任し、教育学部(幼児教育・音楽領域)・教職大学院を担当することになりました。昨年度までは、主に小学校教員を志す学生を対象に、音楽教育や教職に関わる授業を担当していましたが、大学院での勤務は今年度が初めてになります。

大学院の授業では、小学校音楽科におけるプログラミング教育と教材開発に関する研究成果に加え、小・中学校の音楽専科および民間企業でのプログラマとしての経験を活かし、最新の音楽教育の動向やICTの活用事例を取り上げてまいります。加えて、みなさんと一緒に学ぶことを通して、新しい知見に触れ続けていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



授業力開発コース
講師 長山 弘

この度、授業力開発コースに着任いたしました。

私は、2025年3月まで中・高や中等教育学校において理科教員として勤務し、主に高校物理を担当してまいりました。在職中は、米国を中心に発展してきた物理教育研究に基づく教材や指導法を取り入れ、授業実践に取り組んでまいりました。その中で、生徒が自ら考えることの楽しさを実感し、いきいきと学ぶ姿に触れる機会を多く得ることができ、研究に基づく教育の有効性を強く実感いたしました。

現在は、物理教育を専門として教育研究に従事しております。教職大学院においては、研究に基づく授業づくりの在り方をともに学び、その面白さを実感していただけるよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

授業力開発コース
准教授 荻谷麻子

こんにちは。教職大学院ガイドのプレインです。みなさんに、教職大学院がどんなところか、この通信の中で紹介していきます。よろしく願いします。

現場の先生でどんな人が行っているの？

はい、勤務経験が5年以上、教育委員会・学校の事務職員は10年以上の方が対象なので、年齢や経験はさまざまです。職員室のような雰囲気の中で、若手からベテランまでが討論したり笑いあったりしながら、楽しく学んでいます。



「つながりを深める支援―協力を軸にした特別支援教育の取組―」

香川県内小学校教諭 野崎由莉

フォローアップ・プログラムでは、特別支援学級担任同士の協力体制構築を目的とした実践を行いました。特別支援学級団会を開き、情報共有や日々の指導・支援の相談等と併せて、自立活動の流れ図を話し合いながら作成し、児童一人一人が必要としている支援を踏まえた個別の指導計画の目標を共有しました。これらの取組を通して、協力し合う意識が高まるとともに、特別支援学級担任の経験が浅い先生も不安が少しずつ和らぎ、共通理解が深まっていったと感じています。

また、校区内の小・中学校の特別支援教育担当の先生方との情報交換会を行いました。互いの良い取組や工夫を共有し合うことができ、それぞれが得た学びを日々の実践に活かしていく大切さを改めて実感しました。

教職大学院での学びを通して、協力の大切さや組織を広く見る視点を新たに得ることができました。ご指導くださった先生方への感謝を胸に、今後の実践に活かしていきたいと思えます。

「学びを生かし、子どもたちの安全と安心を支える」

香川県内小学校養護教諭 近藤梢子

昨年度は学校現場に戻り、大学院で得た理論や視点を生かした実践に取り組みました。研究テーマであった学校防災を学ぶ中で、養護教諭として日常に潜む危機管理についても、これまで以上に広い視野で捉え直すことができました。また、他県の研究会や教育分野以外で活躍される方々との交流を通して、新たな気づきを得ました。大学での学びを実践しながら支えていただけるフォローアップの機会は、自身の学びが現場でどのように生かされているのか、またどのような課題があるのかを見つめ直す大切な時間となっています。

現在は役割が変わる中で仕事していますが、これまでの学びと実践を基盤に、人と人、現場と行政をつなぐ存在として、子どもたちが安心して安全に過ごせるよう、学校現場とともによりよい環境づくりに努めていきたいと考えています。

「フォローアップで得られた学び」

香川県内小学校教諭 佐藤 南

令和7年度は、大学院在学中に行った「異学年交流活動」の効果を明確にするための実践研究をさらに発展させたいと考えました。そこで、6年生と異学年交流活動計画を進めると同時に、異学年交流活動による下学年への効果を観察や質問紙から検証しました。結果、積極的に異学年交流活動を行う下級生の姿を観察できました。また、質問紙から「6年生をまねしたい」と考える下学年がたくさんいることが分かりました。このことから、異学年交流活動は下学年にとっても良い関係づくりにつながるということが分かりました。今回の実践を日本教職大学院協会で発表し、県外の先生方と交流しました。具体的な視点での意見交流ができたことで、さらに良い実践へと発展できるのではないかと考えています。今後も大学院での学びを生かして、さらに成長できる教員を目指して頑張ります。

短期履修学生制度について

教員（勤務経験が5年以上）の方、又は学校教育法施行規則第20条に規定する「教育に関する職」にある学校事務職員や教育委員会事務局職員（いずれも勤務経験が10年以上）の方で、かつ、教育委員会等からの推薦があり、厳正な審査により派遣が認められた方が1年間の履修で修了できる制度です。この短期履修学生制度で修了した現職教職員の方に、大学院修了後もサポートを継続する「フォローアップ・プログラム」を実施しています。

どんな生活になるの？

教職大学院での授業と担当の先生方とのゼミ、そして週に一度は置籍校に戻っての実習となります。本を読んだり、レポートに取り組んだりする時間も十分あります。お昼は、学食に行ったり、近くのうどん屋に行ったり、大学生と同じような生活をしています。

